



### 介護には畳をどうぞ

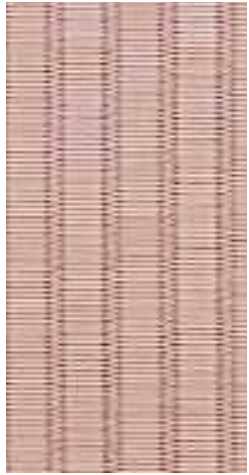
介護には車椅子や水を使うので床にはビニル製のものがよく利用されています。丈夫で水に強いので介護には便利なようです。

これでは畳は介護とは無縁のようにも思えますが、そうでもありません。洗える畳があるんです。東レが開発した畳表は防水とクッション性を追求した介護用畳です。また、強い耐久性を持ちペットが居ても大丈夫です。

「お年寄りには和室」という連想はもはや時代錯誤ですが、畳が介護という無機質になりがちなシチュエーションに安心感を与えてくれることもあるのではないのでしょうか。

介護施設にはこの洗える畳が広まりつつあります。この介護用畳、普及していくような気がしています。

介護用畳  
カラーヴァリエーション13色



「介護用畳」サンプル



watch the construction site

### 施工現場より

富山市のお宅にて畳表替え、リビング床全面張替えと壁全面張替えをさせていただきました。

15年の生活で床面には傷が目立っていました。が、全体的に修繕をさせていただき、広く開放的な空間となりました。



### 都市思庵

島津良樹

What is the city?

### 「JR山手線駅ホームと町景観(2)」

JR山手線の外回りの東半分、田端から品川までホームからの町景観観察を続ける。

上野までの内(西)側は上野台地の崖しか見えな。崖の上は道灌山、谷中墓地、寛永寺、上野公園。そうか、山手線の西半分はこの続きの武蔵野台地の土を走ってるんだ。「丘の西郊」と、東は元々埋立地で「川の東郊」である。隅田川までは約2km。

大型駅の上野・東京・品川以外の他の駅からは街がよく見える。これも東側の特徴である。日暮里上空には再開発タワーが2本と舎人ライナー。この駅の南口連絡橋のトンがり屋根はレトロっぽい。鶯谷はホーム放送の鶯の鳴き声とラブホ群がむき出しの奇観。アメ横の御徒町から田町までは各駅ごとに

ダイープな景観個性を持つ。今時の若者がブキミな秋葉原は大型再開発ビルに囲まれた。ペンビルと中小ビジネスの集積地神田、銀座・日比谷の入口有楽町、おじさんの新橋、羽田モノレールで旅行者の多い浜松町、いつの間にかマンションとオフィスタワーだらけの田町など。消費先行の町景観だけではなく、いかにも東京下町の活況と新旧のビジネスシーンの混在を実感する。

それにしても東ルートは西半分比べて正装のサラリーマン姿が多い。郊外住宅地を結ぶ私鉄ターミナル駅がない東半分にこれだけサラリーマンが目立つのはお江戸日本橋以来の都心機能のDNAがまだに生きていることと山手線のおかげだろう。(実はもうひとつあるがこれはそのうち書きます。)

品川港南口の巨大再開発がその象徴である。品川は高輪口のシティホテルの町でしかなかったが、いまや完全に24時間ビジネス都市になった。エキナカショップの充実ハンパじゃない。隣の大崎のこの十年の景観変貌にもめまいがする。ちなみに大崎は駅前商店街のない山手線唯一の町であつた。

以上で一周。駅ホームから町風景を見てきたが、逆に町から見てピタリ存在感のある駅舎景観はない。町と駅とのデザインコラボがとても貧弱としか言いようがない。その中で、つい先日東京駅の丸の内側を歩いて驚いた。駅舎は内外装共に大幅な化粧直しの真最中である。最初の辰野金吾の設計がそっくり戻ってくる。さすが東京駅ですね。

しまづ・よしき / 都市アナリスト。  
京都大学に学び西山外三に師事。東急総合研究所取締役地域開発研究部長・顧問を経て、立教大学大学院教授。08年よりS&Associatesを主宰。